

国土交通省 地域と共生する超小型モビリティ勉強会(第5回)

超小型モビリティ

豊田市中心山間地域における実証実験(状況)

H29年12月5日

あすけあいプロジェクト超小型EV活用ワーキング

(東京大学・名古屋大学・豊田市共同)

超小型モビリティ 豊田市中山間地域における実証実験

- 【事業の概要】
- ・名古屋大学、東京大学、豊田市共同で
中山間部地域でのモデルコミュニティづくり(あすけあいプロジェクト)として
地域巡回バス、自家用車相乗りシステム、乗合いタクシー、超小型EVなど
多様な移動手段を提供し、中山間地域の移動と活動を活発化することを狙う
社会実験をH28年度から実施中。
 - ・その中の一つとして、**中山間部での地域住民(高齢者)の日常の足のために
超小型EVが有益と考え、その使用による効果検証を実施している。**

【最終目標】 **“生活の質の向上”と共に“移動し易く持続性のあるまちづくり”**

【特徴】

1. **住民主体のサークル活動**

(サークル活動とは、住民の方々が楽しみながらコムスの試用や改造を行う集い)

- ・**“住民の要望(生活スタイルや身体特性)”**に合う様に**“手づくり”**で小型EVを改造
- ・効果検証と事業モデルづくり

2. **持続性のある地域活動**

- ・地域づくり拠点**“つくラッセル”**と連動

実証実験 結果 (H28/4~H29/11)

【“里モビ”サークル活動】

(“里モビ”:山里向け超小型EV)

①貸出し(24台、住民30名)



玄関口登坂試験



(国交省も試乗)

②住民との集い(14回)



山里に合うにはどうするか!



③効果検証(途中)



- ・ 出掛け易い
- ・ 笑顔が出る、生き甲斐になる
- ・ 積み降ろしや駐車が楽!

社会参加、自律性に繋がる
(移動する権利の保障)

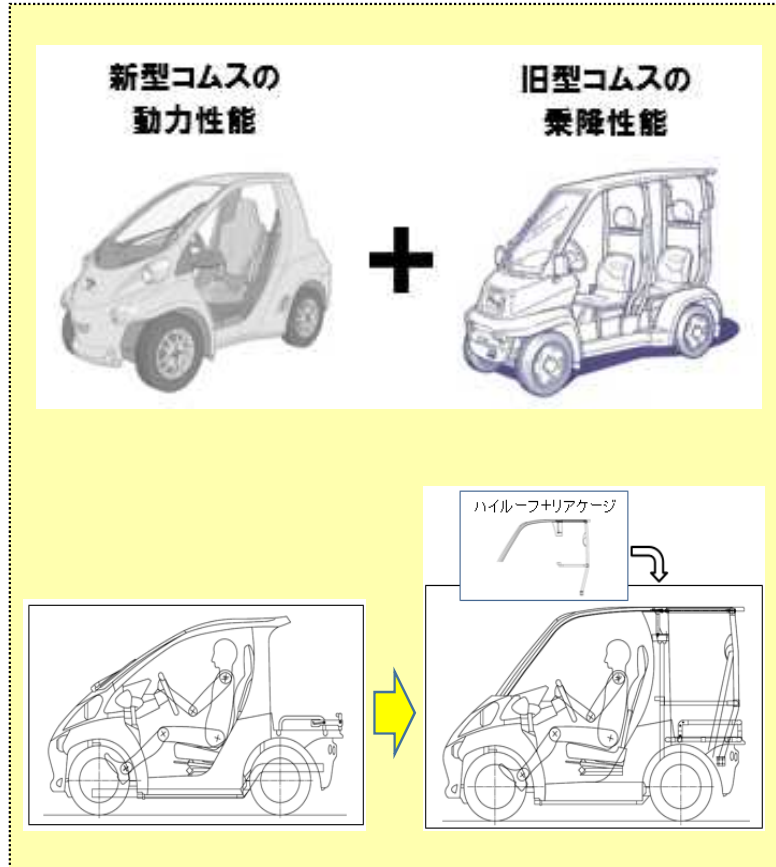
<里モビサークルの集い(5/14)>

参加住民の声「ここが良い!、こうなれば良い!」

- (1) 気持ちいい、笑顔が出る (※印:改善点)
- (2) 駐車や運転が楽...幅1m程度、小型
- (3) 楽に乗り降りできる...ハイフーフ ※
- (4) 給油しなくて良い...自宅で充電
- (5) 色々載せたい...テッキ、自由スペース ※
- (6) たまには2人乗り...折畳み式リアシート ※
- (7) 玄関口へ乗付けたい...登坂力13° ※
- (8) 安定感がある...市販現行型コムスペース
- (9) 雨・寒さ対策をして欲しい...幌・風除け ※
- (10) 小物入れ・サイドテーブル(草刈機)が欲しい ※
- (11) 手に入れ易い...期待値50万円以下 ※
- (12) 限定免許...免許返上者も乗れる ※

住民の方々の声を反映した“超モビ”のコンセプト

【超モビのコンセプト】



中山間地向け超モビ
(2人乗り、荷客兼用)



中山間地向け原付ミニカー
(1人乗り、荷台付)

地域住民の方々との集い(その1)

【里モビサークルの集い(11/25)】



<サークルメンバー住民のお言葉>

「この日は国土交通省、東京大学、名古屋大学、地元、そして遠く岡山で同じコムスの活用をやっている美作の方々が集まってくれました。」

「中山間地で“より使い易く安全な仕様”と“法の改正”を目指して進んでいます。」

「こうした活動は、行政や大学ならば職務の一環としてやれば可能ですが・・・最後は**「地域力」**、**地域が自覚**しなければ具現化はしません。焦らずとも着実に前に・・・」



中山間地向け原付ミニカー
(1人乗り、荷台・幌付)



中山間地向け超モビ
(2人乗り、荷客兼用)

中山間地域における超モビへの要望・課題

	現状	上山地区 (人口165人・68世帯)	足助・旭地区 (人口12千人・2,900世帯)
貸出コムス		15台 (内10台レンタル)	24台 (常時貸出、内3台2人乗り)
利用者		比較的年轻年代、短距離	比較的高齢の方、ちょい乗り
用途		生活の足、仕事づくり手段	生活の足(身体の一部)、畑・山仕事
定員	1人	2人乗り	2人乗り(こども園,病院,畑仕事)
積載量	30Kg	40Kg以上	40Kg以上 (肥料2袋の運搬)
登坂力	11度	13度	13度 (2人乗りは15度)
価格	86.7万~	50万程度	50万程度
免許	普通	原付	原付ないし免許返上者限定
装備	ドア・エアコン無	寒さ・雨風避け、曇り止め	寒さ・雨風避け、曇り止め
要望		免許、積載	免許、寒さ

【軽トラに対する利点】

1. 荷台が低く
荷下ろしが楽
2. 玄関や田畑の
際まで乗付ける
3. 駐車が楽
4. タイヤ位置が見れる
ので安心
5. 維持費が安い
6. 環境にやさしい

【欠点】

1. 価格
2. 寒さ・安全性

<共通の認識> 周知活動

自宅で充電・幅1m
小回り、使い勝手が
良いことのアピールが必要

地域住民の方々との集い(その2)

豊田市旭地区の『あさひまつり』会場(小渡小学校)で、コムスの展示と試乗会を行いました!



思っていたより簡単!

楽しい!

どこで借りれるの!

**新聞配達で
バイクより楽できそう!**

**<所感>
遠巻きにしていた人が
どうどん集まり、試乗。
笑顔が良かった!**

実証実験から・・・超モビが活躍できる条件と利得

1. 地域性 都会か中山間地か？

- ・狭い道があっても入れる
- ・トラックや歩行者が複雑に共存しない”中山間地”が安全に走行できる
- ・近隣にすでに超モビを使っている人がいる(交流、社会参加に繋がる)

2. 用途別有効性 課題志向か対人志向か？

- ・課題志向的→通勤等の短距離移動(ぱっと走れる)
- ・対人志向的→走行途中でのコミュニケーション(オープンの)
超モビをきっかけとしたコミュニケーションの広がり



使っただけ、その良さが分かるが、
生活の足(からだの一部)として
普及するには、原付レベルで
簡単に安全に使える制度が必要！
・最高速度の低下
・運転免許(限定、視力、原付・・・)

さらに必要なこと
・2人乗りや冬季対策
・価格改革
・路上駐車優遇 で需要拡大へ！

3. 乗る人の特性 新しい技術に対する開放性

- ・開放性や外向性が高い →超モビに対し抵抗がなく、使うことのメリットを享受し易い
- ・外巻きに見ている人たち→どうするか？が課題
“実は超モビを使うともっと生活が良くなる”→超モビが“当たり前のようにその社会の中にある
状況づくり”が必要



もっと周知・認知が必要！

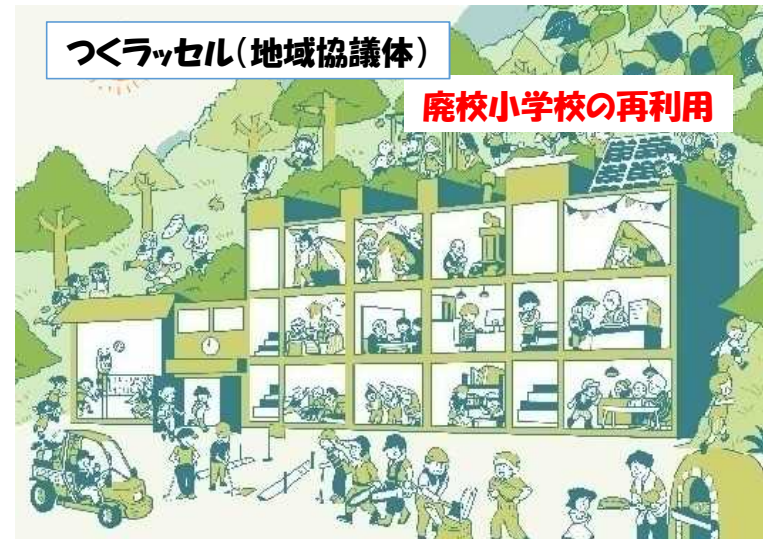
<超モビを使うことで>・・・QOLの向上に繋がる

- ・他人と繋がり易く、対人関係がポジティブになる
- ・普通車が運転できなくなっても、まだ短距離なら移動できるので、自律性を担保できる

中山間地域・・・地域づくり拠点との連携

「人が繋がる “移動” イノベーション拠点」※

- ① 地域に適した超モビを田舎で活用できる
ステーションをつくる
- ② 地域(住民)が主体となって改造し、
リーズナブルに供給できる**体制**をつくる
- ③ 購入およびリースで地域の人**が使える**ようにする
- ④ 地域づくり拠点が**“モビリティスポット”**であり、
“改造拠点”であり、“充電拠点”にもなる
- ⑤ “自家用車相乗り”の仕組みも連動しながら、
地域のお年寄りを含めて地域住民の**交流**が
活発になり、**持続可能な地域**になる
- ⑥ ④以降のところでは、他の仕組みも**合流**



※名古屋COIは、すべての人が地域差・個人差無くいつまでも活躍できる社会の実現を目指している。